

令和 5 年

第 4 回（1 2 月）波佐見町議会定例会

町政に対する一般質問

波佐見町議会

通告順位	1	通 告 者	6 番 岡 村 達 馬 議 員
質 問 事 項 及 び 要 旨	<p><b>1. ふるさとづくり応援寄付金について</b></p> <p>2008年(平成20年)に始まった「ふるさと納税」は、今年10月にルールが変更・改定された。</p> <p>そこで、次のことを問う。</p> <p>(1) 変更・改定によるふるさと納税への影響は。 また、新たな対策や検討はどうするのか。</p> <p>(2) 本町の10月以降の応援寄付金に影響が出てきているのか。</p> <p><b>2. 町長が目指す新しい波佐見の町づくりについて</b></p> <p>町長が就任してから一年がたつ。しかし、町づくりに対しての政策や方針が見えない。町長が目指す町の形態やつくりたい都市施設計画を策定し、町民に示すべきと考える。</p> <p>そこで、次のことを問う。</p> <p>(1) 町長が目指す町の方向性と町づくりの具体的政策と計画は何なのか。</p> <p>(2) 西ノ原土地区画整理事業は町が初めて作成した「波佐見・都市計画」にある。遅々として進まない事業への町長の認識は。</p> <p><b>3. 不登校といじめ対策について</b></p> <p>不登校の児童・生徒が急増し、22年度の小中学生は全国で約30万人であり、この6年間連続で最多を更新している。</p> <p>そこで、次のことを問う。</p> <p>(1) 本町での不登校児童・生徒の現状といじめの実態について、教育委員会の認識はどうか。</p> <p>(2) 全国の不登校児の30万人のうち約11万5千人がスクールカウンセラーや教育支援センターなどの専門職とつながっていない。本町での対応はどうか。</p> <p>(3) 小学低学年生の不登校の増加率が大きくなっており、ヤングケアラーへの対策も急務である。教育委員会の把握と対応はどうあるべきと考えるか。</p>		

質問の相手	町 長 ・ 教育長

通告順位	2	通告者	5番 田添有喜 議員
質 問 事 項 及 び 要 旨	<p><b>1. 農業振興について</b></p> <p>儲かる農業を推進するためには、支出や労働時間を抑え、耕作面積の拡大、高単価な作物を栽培することなどが考えられる。</p> <p>しかし、大きな課題は営農者の高齢化や担い手不足が影響しており、儲かる農業にはかなり厳しい状況にある。</p> <p>そこで、次のことを問う。</p> <p>(1) 新規営農者への支援事業には、国や県・町としてどのようなものがあるのか。</p> <p>(2) 令和4年度、新規営農者に対する町の支援事業が報告された。県と町の補助金のみで十分な営農ができているのか。また、申請手続き上の条件はどうなっているのか。</p> <p>(3) 町として新規就農者支援事業補助金の増額や新規事業は考えられないか。</p> <p>(4) イノシシによる被害は、年々増加の傾向にあり、農作物への被害も増えている。今後の鳥獣被害対策はどのように考えているか。</p> <p><b>2. 教育行政について</b></p> <p>本町は子育て（教育）にかなり多額な予算を投じている。このことは将来の波佐見を担う子供たちのためには必要不可欠と考えるが、課題も山積している。</p> <p>そこで、次のことを問う。</p> <p>(1) 本町の教育課題のひとつに学力が挙げられる。全国学力・学習状況調査の結果は全国平均を下回り、県学力調査結果も県平均を下回るものが多かった。今後どのような具体的な取組を行っていくのか。</p> <p>(2) 学校施設の長寿命化計画は策定しているのか。また、具体的にどのような長寿命化計画があるのか。</p> <p>(3) 5月に実施した「絆の日」の設定に対する保護者や子供たちの考えや実態はどうだったのか。</p>		

質問の相手	町長・教育長

通告順位	3	通告者	3番 澤田昭則 議員		
質 問 事 項 及 び 要 旨	<p><b>1. 観光基盤の整備について</b></p> <p>本町への観光が注目されている中、観光の振興を図るために来訪者や町民双方にとって安全安心で便利に観光できるインフラ整備等が今後必要である。</p> <p>そこで、次のことを問う。</p> <p>(1) 観光の中心地である「やきもの公園」の一部を利便性や質の向上に向けて P a r k－P F I（公募設置管理制度）を活用し、民間活力の導入を推進する考えはないか。</p> <p>(2) 観光イベントにも利用される「波佐見町勤労福祉会館」に今後の利便性の向上と災害時における避難所の利用等も考え、エレベーターを新設できないか。</p> <p>(3) 本町は「観光まちづくり」を推進しているが、観光誘客を更に強化するため、観光スポットに対して環境整備等の新たな取組や案内看板の増設はできないか。</p> <p>(4) 観光関連の新たな取組に挑戦する事業者や団体等に対し、費用の一部を支援する補助制度等の考えや計画はないか。</p> <p><b>2. サポート商品券（仮称）について</b></p> <p>各県では様々な交付金を活用し、地域に応じて物価高騰対策や経済活性化支援に取り組まれている。</p> <p>そこで、次のことを問う。</p> <p>本町事業者の地域経済活性化と連携を目的に「サポート商品券」を全世帯に給付、もしくは販売する支援事業等の考えはないか。</p> <p><b>3. 副町長の選任について</b></p> <p>令和6年1月から役場新庁舎は開庁となり、行政事務においては次年度予算編成等で重要な時期となる。</p> <p>そこで、次のことを問う。</p> <p>副町長選任についての進捗状況は。</p> <p>また長期不在による様々な施策や行政事務執行に対しての影響は。</p>				

質問の相手	町 長 ・ 教育長

通告順位	4	通告者	13番 尾上和孝 議員
質 問 事 項 及 び 要 旨	<p><b>1. 少子化対策について</b></p> <p>本町においては、少子化は重要な課題である。 現時点で、今年度の出生数は80人程度と聞く。</p> <p>(1) 現在、どのような施策を行っているか。 また、今後どのような施策を図っていくのか。</p> <p>(2) 少子化対策としてファミリーサポート事業がある。 本町でも取り組めないか。</p> <p>(3) 本町における生涯独身率の実情は。 また、独身率を減らすためには、どのような施策を図る考えなのか。</p> <p><b>2. 新庁舎の1階に設けられる情報発信交流スペースについて</b></p> <p>(1) どのように活用する考えか。 また、年間スケジュールを立て発信する考えなのか。</p> <p>(2) 年間通して、スペースの一部を窯業の活性化に繋がるようなコーナーとして取り組めないか。</p>		



質問の相手	町 長

通告順位	5	通 告 者	1 2 番 脇 坂 正 孝 議 員
質 問 事 項 及 び 要 旨	<p><b>1. 少子化が進行する中での学校教育について</b></p> <p>本町の出生数は、令和4年が103人、今年は10月末現在で73人である。少子化は児童・生徒の減少として、学校教育に大きな影響を及ぼしている。</p> <p>今後、本町の3小学校の体制をどう考えるべきか、現況と今後の対策について問う。</p> <p>(1) 小人数学級、小人数学校のメリットとデメリットはなにか。</p> <p>(2) 一つの学年、一つの学校の適正児童数は何人程度か。</p> <p>(3) 児童数の減少に伴い、授業や学校行事はどう変化しているのか。</p> <p>(4) 今年の出生者が小学1年生になる11年度の各小学校の児童見込数はどうなるか。</p> <p>(5) 今後の3小学校の体制をどう考えるか。</p> <p>(6) 第5次波佐見町総合計画には、適正な学校運営として、「少子化による児童数の減少を町全体の問題としてとらえ、必要に応じ通学区域の見直しなども視野に入れ、適正な学校運営を目指す。」とあるが、どの様な議論を行い、今後、保護者や地域住民との協議をどう考えているのか。</p> <p>また、第6次波佐見町総合計画で触れてないのはなぜか。</p> <p><b>2. 自転車の安全利用について</b></p> <p>令和5年4月1日から、全ての自転車利用者にヘルメット着用が努力義務化された。そこで、自転車利用の安全対策について、次のことを問う。</p> <p>(1) 町内において、過去3年間に自転車に関連した事故発生状況は。</p> <p>(2) 各学校において、自転車の安全利用指導はどうなっているのか。</p> <p>(3) 児童・生徒はヘルメット着用が義務化されているが、着用率は。</p> <p>(4) ヘルメット着用を含む自転車の安全利用について、町民への広報や啓発、及び講習会の実施計画等は。</p>		

質問の相手	町長・教育長

通告順位	6	通告者	4番 岡村 真由美 議員
質 問 事 項 及 び 要 旨	<p><b>1. 農業用水路、生活排水用水路の管理について</b></p> <p>町内を流れる河川には、県が管理する二級河川と町が管理する普通河川がある。その他は水路と称され、農業用水路については水利組合により管理されている。</p> <p>普通河川までの距離が長い生活排水用の水路は、どのような管理がなされているか、次のことを問う。</p> <p>(1) 隣接する土地の持ち主だけでは補修が困難な水路が、町内にどれくらいあるか。</p> <p>(2) 護岸整備がなされておらずイノシシ等による浸食が進む谷川（水路）では、大雨時には流木による被害も懸念される。このような水路は、どのくらい報告されているか。</p> <p>(3) 補修工事を行う場合、町としてはどのような補助ができるか。</p> <p><b>2. 教育環境施設の有効活用について</b></p> <p>全校児童を対象としたタブレットの配布やトイレの洋式化工事の全面実施等、多額の費用をかけて子供たちの教育環境施設は年々良くなっている。</p> <p>(1) タブレットや電子黒板の活用状況は。</p> <p>(2) 各校の図書室の活用状況は。</p> <p>(3) 小学校での課外時のグラウンド、体育館、プールの活用状況は。</p> <p><b>3. 「ひきこもり」の実態把握と防止対策について</b></p> <p>成人の「ひきこもり」の要因の一つに学童期における「不登校」が考えられる。</p> <p>(1) 「ひきこもり」の実態について、年代別、原因別の把握はできているか。</p> <p>(2) 「不登校」の実態についてはどうか。</p> <p>(3) 「フリースクール」についての考えはどうか。</p>		

質問の相手	町 長 ・ 教育長

通告順位	7	通告者	11番 北村清美 議員
質 問 事 項 及 び 要 旨	<p><b>1. 高齢者問題について</b></p> <p>団塊世代が後期高齢者に突入し、超高齢者社会の到来、若年層の減少が顕著に現れ、もろに各世代、各地域などに影響し始め、全国的に、深刻な状況に追い込まれつつある。</p> <p>厚労省が昨年度行った「人生の最終段階における医療・ケアに関する意識調査」によると、「病気で治る見込みが無く、およそ1年以内に徐々に、あるいは急に死に至ると考えたとき、最後はどこで迎えたいですか」というアンケートに、「自宅あるいは介護施設」と答えた人が53.8%であり、2021年には日本の在宅死率（自宅死・介護施設死）30%を超えている状況である。</p> <p>そこで、次のことを問う。</p> <p>本町の在宅介護・医療・ケアなどのACP（人生会議）の取組は。</p> <p><b>2. 「まちづくり」について</b></p> <p>方向性や課題に対しては「全庁的な取組が必要」と考える。</p> <p>これからは50年・100年先を見越して、本町の「まちづくり」を強化し、住みたいと思える波佐見町とするためにも全力で推し進めなければならない。</p> <p>そこで、次のことを問う。</p> <p>(1) 役場内で各課を超えた職員による定期的な協議が行われているか。また、        どういった経路で協議が行われ、解決しているか。</p> <p>(2) 総合計画や基本計画におけるPDCAについて、出来ていないものは全庁的に話し合う場があるか。</p> <p>また、どの部署が音頭をとるのか。</p>		

質問の相手	町 長 ・ 教育長

通告順位	8	通告者	8番 城 後 光 議員
質 問 事 項 及 び 要 旨	<p><b>1. 波佐見焼産業の現状と今後について</b></p> <p>波佐見焼は、1600年頃から、朝鮮陶工の影響下で生産を開始され400年にわたって、多くの先人たちが歴史を引き継いできた。主流となる商品やブランド名称は変化しつつ、時代に合わせて人々が求める日用食器を脈々と生産されている。</p> <p>現在、燃料や人件費高騰、海外における食器生産拡大などにより、生地製造者を中心に、担い手確保が極めて困難な状況にあり、10年後の将来像が見通しにくい現実がある。</p> <p>そこで、次のことを問う。</p> <p>(1) 近代以降の波佐見焼の歴史と、その主な燃料の関係は。</p> <p>(2) 波佐見焼産業において、現在の大きな課題はどのようなものがあるか。</p> <p>(3) これまで町として、窯業界の発展にどのように関わってきたか。</p> <p>(4) 窯業界への新規就労支援に対し、今後どのような施策を考えているのか。</p> <p>(5) 安定的な担い手確保を進めるため、「波佐見焼工業団地（仮称）」を創設し、生地づくりから陶磁器生産、販売拠点までを一貫して整備することにより、観光客が呼べるような体制の下で、技術伝承を行う計画を作っていく考えはないか。</p> <p><b>2. 学校給食費及び保育園・認定こども園の副食費について</b></p> <p>数々の食材や電気代・ガス代が高騰とする中で、家計の食費負担は厳しい状況である。</p> <p>そのような中でバランスのとれた給食を安心して食べられる環境は、全ての波佐見町の子供たちにとって、非常に重要な子育て支援策であると考えます。</p> <p>そこで、次のことを問う。</p> <p>(1) 小学校・中学校の給食費を一律無償化する考えは。</p> <p>(2) 保育園・認定こども園の副食費を一律無償化する考えは。</p>		



質問の相手	町 長 ・ 教育長